

ABEST21 eNEWS February 2009, No.7

ABEST21 認証評価ニュース-7

=====

昨年(2008)の11月18日に専門審査委員会(Pre-Accreditation Committee)が開催され、「認証評価計画」と「自己点検評価報告」の審査のためにPeer Review Teamが設置されました。この度は、認証評価計画を審査する1チームと自己点検評価報告を審査する4チームの5チームを設置しました。各チームは5名の委員から構成され、そのうちの2名は海外委員です。例えば、あるチームはskypeを利用してのチームの会合がもたれ、まさに国際的に展開されました。特に、アジア諸国からの委員が多いので、時差の問題は小さく、まさに国際的な視点からの評価が行われました。また、海外委員は現地調査のために来日し、積極的に参加され、受審校とのインタビューはすべて英語で行われました。各チームから提出されました審査報告書は英訳され、専門審査委員会で審査し、認証評価の審査結果の原案が作成されていきます。こあと、認証評価委員会の承認を得て受審校に認証評価案が内示され意見申立の機会が設定されていきます。その意見申立の調整を経て、ABEST21は理事会を開催し認証評価の最終決定をし、社会に公表していきます。

ABEST21 Research Projec-2(企業ニーズ)-メキシコ

=====

ABEST21 Research Projec-2(企業ニーズ)の今回の報告は、メキシコの調査結果の概要です。メキシコでの調査はモンテレー工科大学が担当されました。調査票は、510社に送られ、その結果202社の回答を得られ、其の内有効回答数126社、有効回答率は24.7%でありました。回答企業の業種は、製造業が35%、公共、社会保障10%、教育8%、その他が47%でありました。回答企業の55%は国内企業で、海外に支店・工場を持つ多国籍企業は40%でありました。回答企業の内、2007年にMBA取得者を採用した企業は59%、採用しなかった企業は36%、無回答は5%でありました。MBAプログラムは現代の企業・社会のニーズに一般的に correspond していると回答した企業は、85%、対応していないとした企業は13%で、マレーシアに次いで、その一般的な評価は高いものでした。また、管理職を希望する従業員にMBA取得を条件とする採用・昇進方針を設けている企業では、採用においてMBA取得を義務づけている企業は18%、昇進では32%に達していました。MBA取得の従業員に対しては、知識の応用力、国際的感覚、模範的な行動、ビジネスの方向性、リーダーシップと責任感、自信と新しい知識の点で評価されていました。その一方、高給与と役職の期待、MBA取得の時間的コスト、実務経験の無い多くの教授、MBA取得の高い授業料が問題点としてあがっていました。MBA取得者に対して回答企業の過半数が期待した力量は、「リーダーシップ能力」、「独創性とリスクテイク能力」、「プレゼンテーション能力と交渉力」、「チームビルド能力」、「戦略的思考能力」、「分析思考能力」、「意志決定能力」、「情報統合能力」、「実現能力」、「創造性」が上位10位に上がっており、いずれも、53~64%の期待値は他国と比べ高いものであり、それに対する観測値は期待値をすべて下回るもので、24~41%の範囲で推移してありました。それに比べ、期待値29%の「組織化能力」の観測値は51%と非常に高いものでありました。ビジネススクールのマネジメント教育に対する企業ニーズとして、新しい方向性、人材の管理と関係性、リーダーシップ、改革、より实际的、創造的であることが求められておりました。また、MBA取得者は、コスト管理

とオペレーションマネジメント、財務計画、グローバルな概念、新しい考え方の創造、プロセスにおける新しい技術の使用、企業のための新たな戦略の創造を通じて、企業の発展に貢献していくとみられておりました。また、欧米のビジネススクールと比較して、自国の国内ビジネススクールが優れている（50.8%）と評価されておりました。長所としては、ネットワーク、国際化、高い学術的レベル、国内のビジネスを開発する知識、英語による授業、国際的な認証と認知、勉強しやすいという点があがっておりました。短所としては、多くはない奨学金、頭脳の流失、諸外国の知識の欠如がありました。総体的に他国と比較しても、メキシコにおける MBA プログラムの企業からの評価は高いものであると考えられます。

その他

=====

今年、2009 年から、MBA やビジネススクール、企業ニーズの問題に関する意見等を自由に投稿頂く新コーナーを設けました。第 1 回目は、NPO 法人 MBA キャリアデザイン研究所 <http://www.MBA-career.net> の庄司氏に投稿頂きました。

2004 年、夜間の国内 MBA コース修了後、終わってみた後の充実感、その後に得られた満足感、成果物としての論文とかなり濃いやりがいのある 2 年間でした。いい仲間にも恵まれ、同じ様なベクトルを持つ同級生と強い連帯感が生まれました。この 2 年間で色んな意味での意識の変化が起こった方々も多く、同期の修了生のアンケートでは約 5 割の方々が転職されているという結果もありました。しかしながら、日本では MBA を取ったからと言って企業から、それが直ぐに評価につながる訳ではありませんし、それほど評価されないのが現状とも言う話もあります。今、現在社会人大学院が乱立し、質の低下も叫ばれている中、定員割れをしている学校もあると聞きます。また、法科大学院、MOT、アカウンティングスクール等、大学側もしのぎを削って、これでもかと各種コースの開設の動きがある中、日本の MBA の価値って何？というところであろうかとも思います。在学中は、結果より学ぶ姿勢、そのプロセスが大事だと思っていました。確かに大学院で充実した時間を過ごした満足感、達成感、自信も大事ですが、その成功体験やもっと学んだ事を活かさないかと考えました。

日本MBAは設立から年月も浅く、顕著な実績を示すに至ってはいません。転職市場でも実力のほどを評価する事は未だできていません。そういった社会的な報酬システムを変えられるかどうかは、MBAホルダーの今後の活かし方、活かされ方、我々の頑張りにかかっていると考えました。そこで、そういったMBAホルダーの頑張りを支援する団体があってもいいのではないかと発想に行きついたわけです。そこで、日本MBAの価値向上を目指し、日本MBAホルダーのキャリアを支援すべく、2005年2月、大学院1・2期生の有志の方々と共に、NPO法人を立ち上げました。

NPO 法人 MBA キャリアデザイン研究所、その創業の意図するところは、産学連携の中で日本の MBA の価値を高めていく事にあります。日本 MBA のキャリアについて考え、アカデミックな調査研究によって、MBA のキャリアの実態を掴み、日本 MBA の特徴・ホルダーのスキルとその活動課題・カリキュラムの改革点・企業が MBA ホルダーに求めるもの等々を明らかにしていく。キャリアアップを目指す人に対し、MBA を取得し企業において重要な役目を果たせるようにサポートするとともに、MBA ホルダーの価値を企業に理解してもらえる様働きかけ、又ある時は企業と学校

（大学院やビジネススクール）をつなぐパイプ役となり、求められる人材輩出の好循環を生み出していく。最終的に日本の MBA の価値を高めていく事によって、より良い社会創出の為の一助となるべく努力研鑽し、社会貢献を願うものです。具体的には、現在、MBA の実態調査（MBA ホルダ―側と企業側双方からのアンケート調査）並びにHPでの公表、MBA を活用したキャリアデザインに関するテーマでの講演会、セミナー、交流会の開催等々を行っています。（庄司 裕子、NPO 法人 MBA キャリアデザイン研究所代表理事）

以 上